

5年1組

 自分たちの手でつくりたい わたしたちの村  
 ～わたしたちの工夫と挑戦～


## あれ?緩んでるな・・・

竹や木材を使って竪穴式住居の骨組みを建ててきましたが、雪が降るなど天候が悪い日が続き、村づくりを一時中断していました。久しぶりに村に行くと、紐で結んでいた箇所が緩みグラグラしていました。これでは家が倒れてしまい丈夫な家ができないと感じた子どもたちは、さらに強度の強い組み方を考えていきました。Aさんは、十字になった竹に対して何重にも紐を交差させ、竹同士がより密着するように工夫していました。様々な方向に紐を通していくとずれなくなっていくことに気づき、Aさんのチームは、今まで結んできた結び目を再点検していました。また、Bさんは竹の構造を利用し、筒状になっている部分に切込みを入れて木材をはめ込む方法を試していました。収まりがスッキリしながらも、外れてしまう恐れもないBさんの方法は、他のチームにも広がっていきました。



## &lt;ふりかえりから&gt;

- ・前回建てた柱がほとんど倒れてしまっていたけれど、新しいアイデアを思いついてやってみたら上手に丈夫に組み合わせることができました。この組み方だと比較的簡単だし、重力に反する力が生まれにくいのでいい方法だと思いました。次は、丸くりぬいたところに竹を差し込む方法を試してみたいです。
- ・今日、結ぶ紐が足りなくて困っていたとき、Bさんが新しいアイデアを提案してくれました。Bさんは「切った竹を土台にすればいいじゃん」と言って、竹を切り抜いてその間に竹を入れる方法を教えてくださいました。僕たちはみんな納得して作業に取り掛かりました。切り込みを入れるのが難しかったけれど、無事にできてうれしかったです。
- ・今日は玄関になる柱を建てていきました。完成したら柱を建ててみんなの名前や言葉をきざみたいと思っています。でも、色々なところが緩んでいたんで結び直していきました。他にもゆるまないしぼり方があるのか調べてみたいです。村のシンボルを作るのはどうでしょうか。シンボルがあれば村が一つになる気がします。

村のシンボルという意見もありました。そういえばこの村の名前は何かだろうか。みんなはどんな思いで村づくりをしてきたのだろうか。そんなことを思いました。私たちの思いや願いを象徴する何かを作ってみてもいいかもしれません。でも、これはもしかしたら教師への宿題ではないでしょうか。教師も村人として自ら働き出すチャンスがやってきました。旗がいいか、看板がいいか、モニュメントがいいかじっくり考えて子どもたちに提案してみようと思います。

## これじゃダメだった

竪穴住居をつくり始めたとき、建築方法はそれぞれのチームによって違いました。調べた方法でやろうとしてもその場の環境や木材の種類によって変わっていききました。Cさんがイメージしている住居は、四角い二階建ての住居でした。正方形に穴を掘り、その角に柱を建てて四角い家をつくろうとしていました。みるみるうちに自分のイメージ通りに進んでいきましたが、四方の骨組みをつくり終え、ふと上を見上げると、「このままだと屋根がつけられない」とつぶやきました。広くて大きい家を作ろうとしていたため、かなりの長さの木材が必要だと感じたのでしょう。Cさんは、今まで休み時間も使い張り切って取り組んできた分、自分の思い描く家ができないと感じると落ち込んでしまいました。それからの活動は、家づくりには取り組まず別のことをするようになっていました。どうしてもこの家を建てたいという強い思いと、自分の力ではできない現実に挟まれながら、どうしたらよいのか考えていたのでしょう。その頃、他のチームは、屋根が組めるように中央に太くて丈夫な柱を1本立てて、屋根が崩れないように工夫していました。中央の柱に向かって屋根がかかり、家の全体像が見えてきました。そんな各チームの家を見ているとCさんが「なるほど。その手があったか」と今まで手をつけてこなかった家づくりに取りかかっていきました。Cさんは頑張っ立って立てた長い柱をすべて引き抜き、更地に戻し、短くした柱を立てていきました。中央に長い柱を立て屋根を組んでいきました。どうして別の方法にしたのかを聞くと「だって今までの家は大きすぎるから屋根ができなかったんだもん」と答えました。「これだと二階建てはできないかもしれないけどいいの」と聞くと、「もう二階建てにはしなくてもいい。これじゃダメだった」と言いました。Cさんは自分のこだわりや願いに反しても、家を建てたいという思いは変わらなかったのでしょう。自分の思い描く家は建てられないという現実と向き合い、別の方法で家づくりと向き合い直していくCさんの姿がありました。



今年1年間、自分たちの手でつくり上げることを大切にに取り組んできた村づくり。葦と闘い続けた田んぼの開墾や限られた条件の中で工夫し続けた竪穴住居づくりと向き合う中で、わたしたちが目指しているものがよりはっきりしてきました。これから先、この村で、どんなものが生まれていくのか楽しみです。